

Affiliated with the International Association
THE Y' S MEN' S CLUB OF TOKYO HACHIOUJI
Chartered October 30, 1994



〒 191-00
東京都八王子市北野台 2-10-4
久保田 貞視 TEL & Fax : 042-636-3317
E-mail : sskubota21@y4.dion.ne.jp

2018年11月

第281号

The Service Club of The YMCA

東京八王子 ワイズメンズクラブ

会長 久保田 貞視
副会長 花輪 宗命・並木信一
書記 多河敏子・長谷川あや子
会計 小口 多津子
ネット会長 久保田佐和子
担当主事 中里 敦
プリテン 山本 英次・茂木 稔
大久保 重子・多河 敏子
直前会長 小口 多津子

国際会長 Moon Sang Bong (韓国) 主題 “Yes, we can change”
スローガン “Courage to challenges” 「挑戦への勇気」
アジア地域会長 田中博之(東日本区) 主題 Action 「アクション」
スローガン “With Pride and Pleasure” 「誇りと喜びを持って」
東日本区理事 宮内友弥 (東京武蔵野多摩) 主題: 「為せば、成る」
副題「ワイズが何をしてくれるかではなく、あなたがワイズに対して何が出来るかを考えて実行しよう」
あずさ部部長 廣瀬 健 (甲府21) 主題「未来はそれを備える人のものである」
クラブ会長 主題「動こう、動かそう！」副題「変わろう、変えよう！」

11月例会プログラム

日時: 11月10日(土)18:00~20:00
(担当:B班 福田、花輪、並木、望月、久保田)

会場: 八王子北野事務所2F

受付: 望月・福田

司会: 花輪

開会点鐘	久保田会長
ワイズソング	一同
ワイズの信条	一同
ゲスト・ビジターの紹介	久保田会長
聖句・食前の祈り	並木
会食	

卓話「地域包括ケアとは何？」

卓話者: 林 一夫氏(八王子市高齢者福祉課、
生活支援コーディネーター)

立川 恭子氏(八王子市社会福祉協議会、
生活支援コーディネーター)

東京 YMCA 報告	担当主事 中里
報告・連絡事項	会長・担当者
スマイル報告	望月、福田
Happy Birthday	久保田会長
閉会点鐘	久保田会長

特別寄稿 (巻頭言)

東京八王子クラブ例会公式訪問 (中大ナイト)

あずさ部部長 廣瀬 健 甲府21

八王子クラブの皆様楽しく実りのあるひと時をありがとうございました。久保田会長、八王子クラブの皆様から中大ナイト例会開催を聞きはじめて参加させていただき感謝いたしました。中大生が例会の進行すべてを実施し今までにない例会



スタイルは新鮮な気持ちと共に驚きの連続でした。

中央大学 YMCA ひつじぐも、あずさ部内でここまで学生が

先月の例会ポイント (10月)		BF ポイント	
在籍	17名	切手 (国内・海外)	130g
メン	13名	累計	253g
メイキャップ	0名	現金	0円
出席率	76.5%	累計	0円
メネット	2名	スマイル	8,925円
ゲスト	0名	累計	29,015円
ビジター	6名	オークション	0円
ひつじぐも	7名	累計	0円

聖句

「あなたがたを襲った試練で、人間として耐えられないようなものはなかったはず。神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていただきます。」

(第一コリント10章13節)

中心となりワイズ活動に関わり災害募金活動、チャリティコンサート、交換留学、AYC/YC 等にワイズとの関係構築に18年間八王子クラブの歴史にワイズの在り方が視えました。私見にはなりますがこれからのワイズメンズ活動、活性化において若者とのかかわりは不可欠、全てのクラブにおいての課題である EMC のヒントはここにあるような気がします。東日本区すべてのクラブ活性化参考になるでしょう。

あずさ部活性化の考え(八王子クラブ同)

※部の共通の活動を決めクラブで協力する。

※自クラブ員全員がクラブ活性化を実行することが部の活性化に繋がる。

※若者の参加に努める。接点をつくり活動内容を示し入会に予備軍をつくっていくと同時に若者の人材活用をしていく。ワイズメンズをイメージしてもらう。

※クラブに特色を持たせることが大事

以上の事柄はすでに八王子クラブでは実施されていると思います。あずさ部全クラブのモデルとして参考にさせていただきます。

あずさ部部長大役を承り半年、八王子クラブの皆さまとは今までいろんなアドバイス、意見を頂き感謝しております。残された任期よろしくお願ひいたします。

八王子クラブ例会に同行して

廣瀬 まさみ 甲府21メネ

先日のクラブ訪問では楽しい時間を過ごすことができました。ひつじぐもの宮内さん斎藤さん'人前は苦手'の言葉をどこか他人事のように聞いていましたが、実は私も苦手、最後に感想を求められ頭の中が真っ白になり須郷さんの失敗を教訓にする経験を生かすが心に染み彼らの何かを成し遂げようとする気持ちに触れとても貴重な日になりました。有難うございました。

第22回「東日本区ワイズメネットの集い」

～第3回被災地を訪ねて～

久保田佐和子

10月6日(土)今年度の井上優子メネ

ット委員長の開会のご挨拶、東日本区宮内理事の来賓祝辞、委員会報告「今年度の事業計画等」。その後食前の祈り、会食の後、講演会は会場となった郡山キリスト福音教会の木田恵嗣牧師による演題「福島で生きていく」～「危険」と「安全」の対立する2つの意見の間で～のお話がありました。今はすっかり整備されて震災の面影は殆どない郡山ですが、教会も壁にひびが入って直されたこと。現在の福島は「忘却」しかし「潜在的不安」そして「フラッシュバック」が現状であること。

見えない放射能を「見える化」するために放射線量計を教会に配布する活動や子供たちを放射線量の低い地域に連れ出し思いっきり遊ばせる「子ども保養プロジェクト」を継続しこれまでに41回の保養キャンプを開催したこと。しかし、だんだん支援の輪が小さくなっているため今後は教会としても長期的見通しを持った働きをしなくてはいけない事などを述べられました。

記念撮影後、観光バスに乗っての小旅行は、猪苗代湖。お天気に恵まれ磐梯山の全体がくっきり見えました。猪苗代湖での遊覧船は風に吹かれて気持ち良かった！帰路世界のガラス館、野口英世記念館、ビール館などがあるところで小休止。皆さんそれぞれ目的のところで楽しみました。帰りのバスの中で出席者の確認、アピールの時間、メネット会の歌、閉会のご挨拶が行われ郡山駅に到着。みんな時間を急ぐのでご挨拶もそこそこに新幹線に乗り込みました。今回メネット委員長の主題「絆を深め・共に前へ・感謝を忘れず」を実行していただき私たちがその意味を理解できたと思っています。メネット会開催に当たりいろいろなお苦勞があったことは想像できますし、その上に時間変更で関係の方々はどうなにご努力されたかを思うと感謝のみです。有意義で楽しいひと時を本当にありがとうございました。



猪苗代湖にて

10月例会の「中大ナイト」

小川多津子

10月13日(土)のクラブ例会は、恒例の「中大ナイト」例会でした。9月号に久保田会長がこのナイトの経緯を書かれましたが、これは2014年から続いています。この日はあずさ部部長の広瀬 健さん(甲府21クラブ)の部長訪問日でもありました。毎年この日に訪問日を決めていて、部長さんには是非「中大ナイト」を見て頂きたく八王子クラブ自慢のプログラムです。司会から最後まで中央大学学生YMCA「ひつじぐもの」皆さんに担って頂く一日です。

今年の卓話のプログラムは、①「全国夏期ゼミに参加して」②「IYCに参加して」③「STEP 生として台湾・高雄報告」の三つでした。夏期ゼミについての斎藤さんは、実行委員としての苦勞話と「学 Y で聖書研究は必要か」等を議論したこと。IYCの宮内さんは初めての国際大会に出席して、各国の学生

との交流の楽しさを。STEP の須郷さんは、台湾での生活を通して、目の前のことを精一杯やって、やっている経験というのは自ら動かないと、やったという気持ちにはなれないこと。高雄・港クラブのメンバーには大変お世話になったことを話されました。3 人も今回は今までと違って、行動や体験の羅列の発表ではなくて、ご自身の感想、自分が塗り替えられた発見などを話されて新鮮でした。例会の終わりに、出席されたあずさ部長の広瀬さんが、次のような感想を言われました。「中大生学 Y の皆さん、お願いがあります。山梨には沢山の大学があり、どこもボランティアサークル、または学 Y もあります。どうか、その大学の学生たちを奮起させるために、山梨に来て頂き、その学生たちの親クラブになって、道をつけて頂きたいとお願いします」。

中大ひつじくも発表手記

夏期ゼミナール報告

中央大学ひつじくも 3 年 齊藤晴樹

第 46 回夏期ゼミナールが終了してから 2 ヶ月あまりになる。私



はひつじくも(中央大学 YMCA)に入ってから様々な経験をさせてもらった。そして、その一つ一つが自身の成長の糧となっている。その上で今年、さらなる成長を遂げるため

に「挑戦」の年にしようと思い、私は学 Y の一大プログラムである夏期ゼミの委員長に立候補した。夏期ゼミの運営委員というとテーマや講演者の決定、プログラムの構成などやる作業は多岐に渡る。ましてや運営委員長となるとテーマ解題など、人前に立つ場面も多い。

もともと、私は人前で話すことが大の苦手だ。話の機軸が泳ぐほうではなく、人から注目されることも得意ではない。典型的な裏方の人間であると思っているし、それが嫌であるわけでもない。しかし、ひつじくもや YMCA の活動に参加していくと、だんだんと人前に立って話さなければならない場面が増えてくる。その中で、他のメンバーの発表などを見ていると上手だなと思うことが多々ある。同時に、そのメンバー達に負けたくないと思うこともある。だからこそ、負けないように上手くなるためには、苦手なことでも挑戦しなければならないと思い、運営委員長に立候補した。

運営委員長を務めて苦労したのは、夏期ゼミのテーマ解題であった。運営委員のテーマについての考えを、委員長が夏期ゼミの参加者に説明するのであるが、非常に大変であった。大勢の人数の前で話すに加え、参加者が分かるように伝えるという作業、やり終えてみると、人前に立って人にもものを伝え

ることがこんなにも難しいのかと感じた。

夏期ゼミ自体は成功を納めることができた。しかし、私が担当したテーマ解題では、参加者から「分かりにくかった」との意見があり、ショックを覚えた。自分もまだまだだなと感じた。だからこそ、ここで挫折せずに 1 段と成長できるようこれからも苦しいことに挑戦していきたい。また、この姿勢を後輩たちに示し続けていきたい。

STEP 感想

中央大学ひつじくも 4 年 須郷利貴

3 月 31 日にひつじくものメンバーに見送られて出国し、これ



からどんな生活が始まるのかドキドキしていたあの日からもう 7 ヶ月が過ぎました。高雄では毎日が刺激的で、高雄港クラブ・高雄 YMCA の職員さんに親切にしてい

ただき、返しきれないほどの恩をいただきました。おかげさまで台湾では何一つ不満のない 4 ヶ月を過ごすことができ、日台ワイズの皆様へ深く感謝しております。

8 月に高雄より日本へ戻ってまいりましたが帰国してすぐに IYC・夏期ゼミに参加し、北京へ一人旅をし、高雄へ行き STEP のお礼の挨拶をしましたので、日本での生活に慣れる時間もそこそこに忙しい毎日を過ごしていました。4 ヶ月間の STEP を終えて、私が感じたことは「自分の将来について考える時間を持てた」ということです。台湾での生活は「何をしても自由」。一日中、何もせずに休む日もありましたし、中国語の検定試験に向けて必死に勉強をしていた日もありました。そこで、考えていたことは「自分は将来何をしたいのだろうか」ということです。もし大学に在学していたとしたら、自分自身をじっくり見つめ直す機会は限られていたはずですが、しかし、休学をして自分の好きなように時間を過ごしていると、自分自身の将来ややりたいことを描けるようになりました。これは私の人生にとって重要な時間であったと思いますし、必要な時間だったと感じています。日本に戻り、高校生の頃から続けているアルバイトをしていると、中国や台湾のお客さんに積極的に話しかけて接客するようになりました。まだまだ流暢に話すことはできませんが、通じ合ったときはすごく嬉しい気持ちになります。こういった形で自分の努力が実り、将来の選択肢が広まっているのだと実感しています。そうしているうちに、私は海外で働くことや、外国人のために仕事をするのが向いているのだと感じるようになりました。年も明ければ就職活動も本格化し、4 月には大学生活も再開します。その際に、今回の STEP での経験が生きるよう、努力を怠らず自分の進みたい道に進めるように準備をしていきたいです。

西東京 CC 便り

西東京センター主任主事 中里 敦

寒さが日に日に増してきましたが、寒いからこそ日差しの暖かさや温もりを感じることもできます。そして、クリスマスを迎える時期となり、今年のアドヴェントは一ヶ月後の12月2日から始まります。神様をより身近に感じられる時でもあります。年末に向け慌ただしい中でも色々な楽しみが多い季節ですが、西日本豪雨から四ヶ月経てもまだ不安の中で生活をしている人たちも多くいます。西日本だけでなく、今年は震災、災害が多くありました。どの地にあっても報道がされなくなり、目にすることは少なくなりますが、現地の人たちにとって復興は終わっていないことを覚え、私たちに出来ることをしていきたいと思えます。そして、皆さんが楽しいクリスマスを迎えられるよう祈ります。

さて、秋から冬にかけては、大きなイベントが多く、11月「YMCA 秋まつり」、12月「西東京ファミリークリスマス」が催されます。これらのイベントは、企画・立案からワイズ、会員によるサポートチーム、リーダーたちにより進められています。音訳ボランティアシジュウカラ、のどトレ教室など YMCA に関わる多くの人たちが集結して行われます。このような機会を通して会員や地域の人たちとのつながりを深められればと願っています。地域センターはスタッフだけでなく皆さんと共に創り上げていくことで、力が生まれてくるものだと感じています。「みつかる」「つながる」「よくなっていく」YMCA でありたいと改めて願っています。

＜西東京センター 主な行事予定＞

【11月】

- ◆3日(土)「ペタペタの会」@国立市ウオーク 10時00分～14時30分 今回は、原点に戻って国立市を歩きます。今まで知らない発見があり楽しいです。定員：各回30名 参加費：無料
- ◆4日(火)「YMCA 秋まつり」@東京 YMCA 医療福祉専門学校 12時00分～16時00分 2回目となる秋まつり。バザー、ボイストレーニング、屋台、野菜販売、子どもコーナーなど。ぜひ、お越しください。お手伝い、献品も募集中です！
- ◆13日(火)「のどトレ教室」@西東京センター 14時00分～15時00分 毎月(8月を除く)第2火曜日に行っています。誤嚥予防、ハリのある声やスムーズな滑舌を身につけましょう。定員：各回30名 参加費：700円/1回

中大ひつじぐも便り

『手をつごう・こどもまつり』に参加して

恩田春香

先日、日野市の「手をつなごう・こどもまつり」に参加した。地域で子どもたちのために活動している市内の団体・行政機関(全61団体)が運営する大規模なお祭りだった。会場に入ったとき、その規模に驚いてしまった。ピザ得点ゲームやアスレチック、相撲体験、テーブルゲーム(将棋にオセロにおはじき遊び、ドミノ等々…)ホッケーなど、遊びのコーナーがこれでもか!とばかりに並び、焼きそばやチヂミなどの模擬店もたくさんあった。また、大きなステージも設置されており、子どもたちがダンスや演奏など、素敵なパフォーマンスで魅せてくれた。10年前の自分がもしこの場に足を踏み入れたら、きっと小躍りして、一分一秒でも惜しいとばかりに走り出し、母を困らせたことだろう。今回はボランティアとしての参加であるにも関わらず、そのような想像を長いこと楽しんでしまった。

私たちひつじぐもは、日頃からお世話になっているみさわ児童館の職員の皆さん、そして帝京大学サークルのどんぐりさんと一緒に、遊びコーナーを担当した。

未就学児から小学校高学年ぐらいまでの子どもたちがたくさん遊びに来てくれた。あちこち走り回って腰が痛くなったが、子どもたちの楽しそうな様子を見ているうちに、それも忘れてしまった。

子どもたちの無邪気な笑顔を守るために、私ができることは僅かかもしれないけれど、ひとかけらでもいいから支えになりたいと強く思った。

目の前にいる一人一人をしっかりと見て、あなたが大好きで、あなたはそこにいてくれるだけで幸せをくれるんだ!という気持ちを持っていくことができるように、これからはずっと活動していきたい。



お話

「信仰の友から病氣見舞いの葉書をいただきました。それに印刷されてきた聖句です。友人や知人の病氣見舞いに出向くことは難しくとも、せめて、葉書を書いてでもお慰めしたいものですが、案外できないです。ですから頂いた私は感謝感激なのに、お礼の返事は出せずじまいという有様です。

聖句はそれぞれ歴史の流れの中で語られたものですから、どのような流れのなかでのものかを知る必要があります。ゴリトの人たちは、この時どんな試練にあっていたのでしょうか。パウロは一生懸命力づけようとして書いているのでしょうか、果たしてどんな効果があったのでしょうか。この聖句は「わたしの愛する人たち、こういうわけですから、偶像礼拝を避けなさい。」と続いています。」

仲田達男

報 告

10月13日は10月第一例会の日でした。

◎中大ナイト・あずさ部部長公式訪問 (担当 A 班)

出席者: A 班長谷川・小口・中塚・中里(4名)

B 班久保田会長・久保田佐和子・福田・並木・望月(5名)

C 班山本・辻・辻久子・茂木・大久保・多河(6名)

ビジター: 広瀬健(甲府 21・あずさ部部長)メネット広瀬ま
み・神谷幸男(東京西クラブ)・渡辺大輔(東京武蔵野多摩)・
菰刈光彦(東京サンライズ) 浅羽俊一郎(東京山手)(6名)
ひつじくも:(4年)須郷利貴・(3年)宮内蒼也・斎藤晴樹・(2
年)恩田春香・戸加里春樹・岡村絢音・和崎竜也(7名)

計 28 名

卓話: ①斎藤晴樹～学生 YMCA 夏期ゼミ及び大会委員長
として感想、責任及び終了しての充実感と自信。

②宮内蒼也～IYC に参加者としてIYC のプログラムを追い、
セッションの概要及び英語 でのスピーチを含めてやれば
ある程度はできる自信がついた。

③須郷利貴～STEP として現地でのワイズや YMCA での
活動及び中国語の学習を通じて4カ月の体験は貴重であり、
課題に対してポジティブ思考が身につく、八王子ワイズへの
感謝。

◎報告連絡事項

① 10月10日(水)・・・東京武蔵野多摩クラブとの合同例
会(ユースボランティア感謝会)出席者:久保田会長・福田・小
口・長谷川・並木

ユースの YVLF 体験と仙台でのリーダー代表者会の概要
及び感想。の後懇親会で盛り上がった。

② 10月15日(月)・・・11時 故橋本さんの墓参り;久保田会
長・山本・小口

③ 10月20日(土)・・・あずさ部部会一出席者:久保田・小
口・長谷川・花輪

④ 10月17日(水)・・・インド・ハイデルバードクラブ来日歓
迎会(出席者久保田会長)

⑤ 11月2日(金)・・・11時白門祭出席者・久保田会長・中
塚・長谷川・多河・中里・福田、小口、福田 7名。

⑥ 11月3日(土)・・・東京YMCA 西東京センター会員の集
い・ペタペタの会 参加者は長谷川、小口

⑦ 11月4日(日)・・・東京YMCA 西東京センター秋祭り(参
加者は小口+?)

⑧ 11月4日(日)・・・藤井寛敏ワイズ、バレンタイン賞受賞
祝賀会 出席者:久保田会長・長谷川)

⑨ 11月10日(土)・・・11月例会 卓話「地域包括ケアシ
テムって何?」・八王子高齢者福祉課 卓話者:林一矢氏(生
活支援コーディネーター)・立川恭子(八王子市社会福祉協
議会生活支援コーディネーター)

⑩ 11月18日(日)・・・18時～町田新クラブ設立総会
会場:町田市民フォーラム4階講習室

出席者:久保田会長・長谷川・小口・中里

⑪12月15日(土)・松本クラブ創立30s 肩郵年記念例会・第20
回記念「アジア賞」授賞式

出席者:久保田会長・長谷川)

⑫12月22日(土)・・・クリスマス例会 17時～21時大学セミ
ナーハウス 詳細は10月第2例会及び11月例会で。

奨励:並木信一

仲田さんへ・・・久保田会長から
長い間、クリスマスの奨励をご担当され、メンバーを啓蒙し
ていただきありがとうございました。一同、感謝申し上げます。
これからのクリスマス例会には引き続きご出席されます
ようお願いいたします。

⑬スマイルは「西日本豪雨災害支援」として8,925円集まり、
クラブとして差額負担して1万円として寄付。

絹の道デイサービスセンター ボランティア活動

【報告】10月19日(金) ペーパーフラワー

参加者:赤羽、石井、色川、調、多河、山口、山中、茂木

【予定】11月9日(金) 14:00～15:00 ペーパーフラワー

*BF2018年8月報告 切手・プルタブ報告

切手: 国内	35g	
海外	0g	累計 158g
プルタブ	0kg	累計 5.5kg

10月の誕生者



辻 久子さん 29日 小口多津子さん 4日

11月誕生日のお祝い

中里	孝子さん	11月 1日
福田	勝江さん	11月 11日
花輪	豊子さん	11月 12日
山本	英次さん	11月 26日



中大ナイトを記念して集合写真

追悼文 橋本秀昌君を偲んで

久保田貞視

橋本さんが昨年7月に亡くなってから早いもので1周忌が過ぎました。秋の彼岸も過ぎた10月15日(月)に山本さんの車に小口さんと便乗して橋本さんの墓参りに行ってきました。彼は自分の墓を亡くなる2年前に既に用意しておいたようです。この墓を選んだのは近くに住んでいた彼のお兄さんのお墓もあり、墓の上は見晴らし台となっていて、高尾山の頂上展望台からと同じく富士山を中に左に丹沢連峰が展望できるからだと思ひます。

彼とは八王子にワイズメンズクラブを立ちあげようというときからの付き合いで25年になります。

クラブ創立当初から持ち前の笑顔と明るさでクラブをリードし、クラブ活動に積極的で、八王子に YMCA が無いが西東京センターの夏のキャンプの子供たちを八王子でも集めようと募り、バスを回してもらい、彼の車で飲食物を運び入れたり、第2例会では自宅を開放し、例会終了後は毎回お酒を飲んでの懇親会と楽しいひと時を過ごしました。クラブ設立当初の活動は奈良ワイズを中心に、今原、富永、眞野、津田、橋本各ワイズが主となって運営していましたが、眞野さんが西東京市に移り、他のメンバーは退会し、暫くは橋本さんが中心で動いていました。12年前に八王子の特色を出そうと高尾山健康登山のアイデアをだしたのも彼で当初は毎月1回、一緒に登っていました。この健康登山は既に12年継続し、142回(月)を数えるようになり、ワイズの常連のメンバーは長谷川さんと二人だけとなってしまいました。

クラブ創立の頃は立川に YMCA があり、諏訪神社のお祭りのバザーには彼は富永さんと積極的に品物を集め、大久保さんの車で諏訪神社まで運びバザーに参加したのも思い出の一つです。

橋本さんは若くして先立たれましたが、クラブ活動の原点は「笑顔」と「楽しさ」であり、それに「奉仕」を加えますが、彼は 0 型人間の象徴的なひとりで、彼の存在を忘れずに八王子クラブの活動を一層発展させるのは残された私達の責務ではないでしょうか。彼のご冥福を祈ります。

高尾わくわくヴィレッジ便り 10月号

所長 古市 健

11月、本格的な秋を迎え、高尾は朝晩の気温もぐっと下がり、早朝には10度に近づくような日も出てきたようです。施設内の木々も、心なしか例年より少し早く紅葉してきたように感じられます。日中は気持ちの良い日が続く、多くの予約のお客様以外にも、近隣にお住まいの小さな子どもをお連れのお母様が、原っぱなどで遊んでいる様子も多くお見かけいたしました。最も忙しい夏が終わって時が経ち、ややお客様は少なくなってくるとは言え、やがてやってくる新年度に備え、施設の改修工事や職員の研修などが予定されています。今後ご利用いただくお客様を思い、しっかりと日常を過ごしてまいります。

下半期のスタートとなる10月もあと数日で終わる段になってまいりましたが、おかげさまで今月も多くのお客様にご宿泊いただき、宿泊者は実に3年ぶりに3,000名を突破いたしました。夏とさほど変わらないような忙しさの中、職員一同みな良く頑張ってくれていました。例年通り、特別支援学校の子供達を多くお迎えでしたが、様々なプログラムに挑戦し、実りある体験学習をしてくださったものと感じております。今後も特別支援学校の子供達の利用が続きます。彼らが安全安心に、のびのびと過ごせるよう、気を緩めずに業務に励んでまいります。

また、この10月は新たな試みで「Try Kid's English Guide Around Mt. Takao!!」という社会教育事業を開催しました。当施設で英語の勉強をし、それを糧に高尾山へ赴いて外国人観光客に周辺案内をするプログラムでしたが、これも好評のうちに終えることができました。こういった新たな試みにもチャレンジを続けて参りたいと思



紅葉のはじまった施設のケヤキ